

		チェック項目	はい (%)	どちらとも いいない (%)	いいえ (%)	改善目標・工夫している点など
環境・ 体制整備	1	子どもの指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	100			基準に沿ったスペースを確保している。
	2	職員の配置数は適切であるか	100			基準を上回る配置をしている。新たに心理指導担当職員も配置した。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	100			必要な場所にスロープや手すりを設置している。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	88	12		個別支援計画に基づいて、ふりかえりと目標設定を行っている。
	5	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	100			毎年保護者にも評価をして頂き、業務改善につなげている。
	6	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	100			評価内容や意見、改善内容等をまとめ、ホームページで公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			100	第三者評価は行っていない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	100			今年度は、新たな取り組みとして事業所合同のABA応用行動分析の研修会を実施した。外部の研修に参加した職員もいる。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析したうえで、放課後等デイサービス計画を作成しているか	100			聞き取りや観察に基づいて個別支援計画を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	12	88		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	100			複数で立案している。
	12	活動プログラムが固定しないように工夫しているか	100			いろいろな活動が出来るように工夫している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	100			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	100			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	100			
	16	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	88	12		送迎の関係で、その日のうちに出来ない事もあるため、その時は次の日に行っている。

	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	100			支援の記録は日々行っており、支援の改善につなげている。
	18	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	100			
	19	ガイドライン総則の基本活動を複数組み合わせ、支援を行っているか。	100			
関係機関や保護者との連携・関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	100			基本的に児童発達支援管理責任者が参画している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	88	12		送迎に関することや、子どもの様子、家庭の状況などの情報共有を行っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	38	50	12	現在対象者なし。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	100			就学時には、情報の共有を行っている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供するなどしているか	100			情報提供書を作成し、会議に参加している。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	100			
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	12	38	50	近隣に交流できる施設がないためできていない。
	27	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	100			子ども部会に参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	100			連絡帳を使つての報告や、送迎時、電話などで情報共有している。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対しての家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	62	38		
保護者への説明	30	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	100			契約時に説明している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	100			必要に応じて相談支援を行っている。

	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	38	50	12	保護者勉強会開催のお手伝いを行った。
	33	子どもや保護者からの相談、苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	100			迅速な対応を心掛けている。
	34	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	100			ホームページのブログの更新が少ないので、頻度を高めていく。
	35	個人情報に十分注意しているか	100			スタッフ間連絡時に暗号を使用している。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	100			PECSを活用している。 外国語を母国語とされる保護者への連絡帳は内容を配慮している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	38	24	38	
	非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知しているか	100		
39		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練を行っているか	100			避難訓練を実施している。
40		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	100			監視カメラを設置している。 研修を行ったり、日頃の対応について話し合っている。
41		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	100			身体拘束に該当する行為が日常的に必要な場合(オムツ交換、車の昇降時等)は、事前に保護者に説明している。
42		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示所に基づく対応がされているか	24	76		該当する児童がいない。
43		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	100			情報共有を行っているが、記入に至らないこともあるので、事例集に記入するようにする。

令和5年3月実施